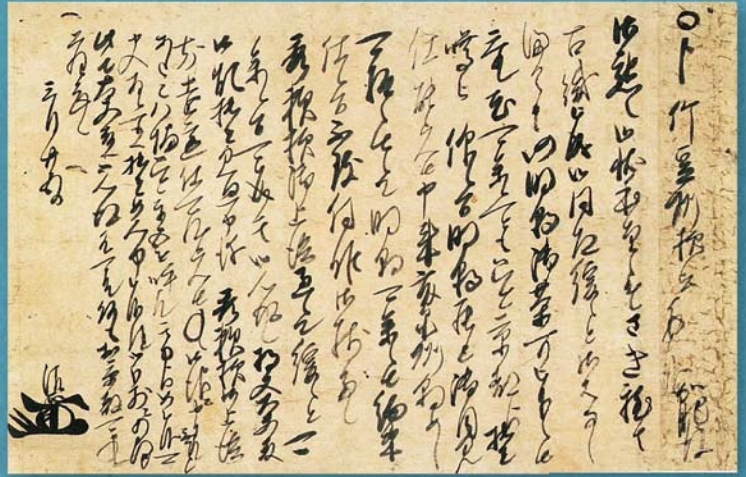


▶ 加藤清正最期の書状 —— 家康に毒殺されたのか？

大坂冬の陣の3年前、徳川家康は豊臣秀頼に断固たる態度で上洛を要求した。拒否すれば戦争、という危険が高まるなか、加藤清正は豊臣家を説得して京都二条城における会見を実現させた。

本状は会見3日前の清正書状。家康から呼び出しがあったことなどを親しい大名に伝える、緊迫感あふれる内容である。

こうして豊臣と徳川の融和に努力した清正だが、二条城会見の3ヶ月後に急死する。直後から人々は、家康による毒殺説をささやきあつた。



▶ 天海僧正の遺品と伝えるよろい(求法寺蔵) —— 天海は明智光秀だったのか？

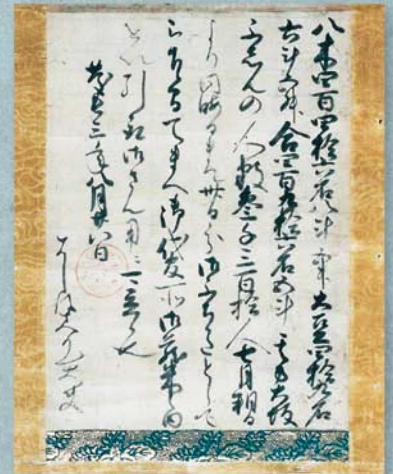
家康の側近として幕政にも影響をおよぼした天台僧、天海の遺品と伝える。

この天海が、じつは明智光秀だったという説がある。本能寺の変のあと、山崎合戦で秀吉に敗れ、逃走中に百姓に討たれたはずの光秀なのだが、死んではいなかった、徳川に仕え、家康の相談相手となっていた、というのである。その証拠に、天海はゆかりの深い日光に「明智平」という地名をつけた、などとされるのだが……。

▶ 秀吉死後の朱印状 —— 秀吉の死をめぐる謎

秀吉は慶長3(1598)年8月18日、伏見城で息を引きとった、はずである。

しかし近臣の福島正則にあてた本状には、「慶長3年8月28日」の日付けが明記されているのである。朱印は秀吉のものにまちがいない。なぜこのような文書が出されたのだろうか？



◆ 学芸員のおススメコレクション ◆

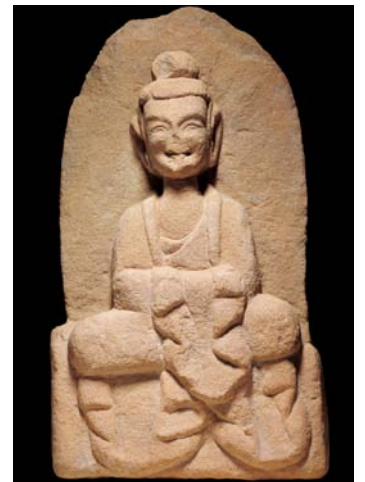
大阪市立美術館 笑う仏像

目を細めニッコリ笑っている珍しい仏像です。残念ながら鼻の辺りが失われていますが、べーっと舌を出しているようにも見えます。これは今からおよそ1500年前、中国の南北朝時代にあたる北魏(ほくぎ)～西魏(せいぎ)王朝の頃に造られた石仏と考えられています。北魏仏というと「飛鳥時代の仏像様式の源流」と言われますが、近年は研究が進み、北魏には様々なすがたの仏像が造られていたことが分かっています。本像は、こうした北魏仏の多様性を今に伝える貴重な作品なのです。ぜひ実際にこの笑顔を観に美術館へお越し下さい。

(大阪市立美術館主任学芸員 齋藤 龍一)

※今回紹介した作品は、大阪市立美術館で開催する特別展「北魏 石造仏教彫刻の展開」に出品されます。《9/7(土)～10/20(日)》

大阪市立美術館 所在地 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82(天王寺公園内) TEL 06-6771-4874
FAX 06-6771-4856 アクセス JR・地下鉄「天王寺」、近鉄「大阪阿部野橋」下車、北西へ約400m 天王寺公園・公園入口よりお入り下さい。 ホームページ <http://www.osaka-art-museum.jp>



石造 如来坐像 北魏～西魏・6世紀前半
大阪市立美術館蔵
(山口コレクション)

大阪市立博物館・美術館・動物園

大阪てくてくミュージアム

大阪市立東洋陶磁美術館 / 大阪市立科学館 / 大阪市立美術館
天王寺動物園 / 大阪城天守閣 / 大阪歴史博物館
大阪新美術館建設準備室 / 大阪市立自然史博物館

